

一括受信とトランスレータの連携(案)

1. 改修内容定義

- ・一括受信した EDI データを自動的にトランスレータで CSV に変換する。(変換を実施するかどうかは、一括受信設定画面から設定可能とする)
- ・変換したファイルは、拡張子".csv"でダウンロードフォルダに保管する。
- ・トランスレータが出力するログを蓄積するように修正する。現状は、1ファイル変換する毎にログをクリアしている。

2. 改修箇所

2.1. ユーザーインターフェイス

一括受信設定画面 (CW510) にて、受信データを保管するファイル形式(XML or CSV) を設定するオプションボタンを追加する。
コントロール名は、名前の最後に「_rc」を付ける。(例: format_rc)

2.2. リソースファイル(CW510.xml)

2.1 で追加されたオプションボタンのリソース情報を追加する。

2.3. クライアント設定ファイル(option.xml)

ファイル形式を登録するための要素をルートノードの子ノードとして追加する。
タグ名、値の形式は任意である。(2.41 で実装側が合わせる)

2.4. クラスモジュール

2.4.1. XClientCommon.OptionInformationObject

2.3 のファイル形式の読み取り、登録を行うためのプロパティプロシージャを追加する。

2.4.2. CWeb.TranceClass

以下の2通りの変更方法が考えられるが、2.4.2.2の方が他のモジュールの修正が少なく、影響範囲も限定されるのでよいと思われる。

2.4.2.1. 既存のメソッドを改良する方法

- ・CSV 変換メソッド(toNonXML) が呼ばれる度にトランスレータのログが消去されている。一括受信の場合、複数のファイルを一度に変換するので、変換したファイルそれぞれのログを残すように変更する必要がある。
- ・CSV 変換処理で、トランスレータがエラーコードを返した場合、トランスレータのログを表示するかどうか問い合わせるメッセージが表示されるが、メッセージの表示処理が CSV 変換メソッド(toNonXML) に組み込まれている。スケジュール機能により受信中にエラーが発生した場合、このままだと画面上にメッセージが表示され、処理が中断してしまう。呼び出し側にメッセージ表示処理を移行する。

一括受信とトランスレータの連携(案)

2.4.2.2. 一括用に新規のメソッドを追加する方法

既存のメソッドを利用して、一括用の新規メソッドを追加する。既存メソッドからの変更点は以下の通りである。

- ログ削除処理を廃止する。
- エラーメッセージ表示処理を廃止する。
- エラーログ表示確認処理を廃止する。

2.4.3. CWeb.FormCommon

- 2.4.2 で既存のメソッドを改良する場合、mnuFileSaveList 及び mnuFileSaveDetail メソッドに、トランスレータ変換エラー時のメッセージ出力処理を追加する。

2.5. フォームモジュール

2.5.1. 一括送受信設定画面 (CW510)

- setInfo 関数にファイル形式登録処理を追加する。

2.5.2. 一括送受信画面

- download 関数(受信処理メイン)及び reget 関数(再受信処理メイン)で、受信データを download フォルダにコピーする直前に、TranceClass による CSV 変換処理を追加する。
- 変換エラーが発生した場合、エラー内容を処理結果メールに書き込む処理を追加する。